



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099(226)5100  
振込口座02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円

道標



「司祭年」の開催を告げる教皇庁・聖職者省長官の文書を掲載します。この文書は司祭宛に出されていますが、内容は神の民全体に呼びかけるものです。鹿兒島教区でもこの文書の呼びかけにこたえ有意義な一年が過ごせるよう願っています。(編集部)

司祭の皆様  
わたしたちの敬愛すべき教皇ベネディクト十六世によつて発表された司祭年が近づいています。司祭年は「アルスの聖なる司祭」である聖ヨハネ・マリア・ピアンネの没後百五十周年を記念する年です。「イエスのみ心の祭日」であり「世界司祭の聖化のための祈願日」である六月十九日に、教皇は司祭年を開幕します。司祭年の発表は、とりわけ司祭自身によつて温かく受け止められています。司祭を深く愛し、司祭が幸せに敬虔に喜びに満ちて日々の使徒的働きを行うように望んでいるカトリック信者の参加のもとに、教区、小教区、あらゆる地域共同体、そして全世界で司祭年が広く祝われるように決意と誠意と熱意をもって尽くしたいものです。

司祭年は建設的で前向きな一年になるにちがひありません。教会は司祭を誇りとし、愛し、尊敬し、賞賛すると同時に、彼らの司牧

的働きと生活のあかしに感謝しています。教会はそのことを、とりわけ司祭に語りかけますが、それだけでなく、マスメディアを通してすべての信徒と社会全体にも告げます。司祭は真にその行いだけでなくその存

在ゆえに大切で、残念なことには現在、一部の司祭が非常に問題のある嘆かわしい事態にかかわっていることが明らかになっています。これらの事態を調査し、司法手続をとり、しかるべき刑罰を課する必要がある。しかし、そうした司祭は聖職者のほんの一部にすぎないことに留意することも重要です。大多数の司祭は、人間的に非常に誠実に聖職に身をささげ、祈りと司牧的愛の人です。彼らはしばしば大きな個人的

### 司祭年(6月19日開始)を迎えるに当たって

## 教皇庁・聖職者省長官メッセージ

### クラウディオ・フンメス枢機卿

会における司祭の召命と使命の特別な意味について深く考える機会となります。そのためには、勉強会、静修、司祭職を振り返るための黙想会、神学校での会議や神学セミナー、科学的研究、出版物発行などを行う必要があるでしょう。

して、聖職者省が以前に提案したように、司祭の聖化のための聖体礼拝と、奉獻者である修道女と女性信徒の司祭に対する母のような霊的支えがさらに深まり、聖化の実りを確実にもたらすでしょう。

三月十六日、教皇は教皇庁聖職者省総会における演説の中で司祭年の発表を行い、次のように述べました。「司祭の奉仕職の実効性は、このような霊的完徳に対する努力にかかっています。

この一年が、司祭がおかれている実際の境遇や生計について考える年ともなります。世界は多くの地域で、司祭はしばしば非常に貧しく困窮した状況の中で生活しているからです。また、この一年が信仰に

### ザビエル上陸記念祭

- 第一部 ザビエル教会聖堂  
8月9日(日)13時30分  
「平和」パネルディスカッション
- 第二部 記念ミサ 他  
8月16日(日)
  - ・ザビエルウオーク(13時30分 祇園之洲 ザビエル上陸記念碑前)
  - ・平和の鐘を鳴らそう(16時30分 ザビエル教会前広場)
  - ・記念ミサ(ザビエル教会聖堂)
  - ・祝賀会(ザビエル教会中庭)

基づく公的な祝典を行う年ともなりますように。地域のカトリック共同体の人々は、そこで祈り、考え、祝い、司祭に正しい敬意を表すのです。教会共同体において

たがって、それぞれの教区、小教区、地域の共同体がこの特別な年に有効なプログラムをなるべく早く立ち上げることを望まれます。もちろん、司祭年を開始するにあたり、何か大きな催しをするのも重要です。地方教会は、教皇がローマで司祭年を開幕する六月十九日に、特別な典礼や催しを行うことによつて、司祭年開幕に参加するよう招かれています。開幕時にローマに来る予定の人は、教皇のこの幸いな計画に参加していることを示しましょう。

神はこの取り組みを大きな愛をもって確かに祝福され、聖職者の元后である祝福されたおとめマリアもまた、司祭の皆様一人ひとりのために祈って下さるでしょう。

二〇〇九年五月二十日  
クラウディオ・フンメス枢機卿(サンパウロ教区名誉大司教 教皇庁・聖職者省長官)

### YET

人殺しとか強盗だとか書かれているバラバについての解説だった。本部の朝礼でホミリア担当の神父さんは「反政府指導者のような者」だったと論じた。当時、ローマの支配下にあった地でその解放のために立ち上がった人だとも。だとしたら：▼ちよつと熱くなりすぎる自分である。そして権力をふりかざす者への反骨心も強い。もし自分がその時代に生きていたら、間違いなくローマからの解放を望んでいただろう。自分たちの毎日の生活と支配者や為政者の生活を比べて、それをうらやましく思いながら、スキあらばとんでもないことを目論んでいたに違いない▼そんな自分である。ちよつと風変わりなうつつ「救い主」と「反政府指導者」を天秤にかけなければならぬ瞬間があったら：。どう思いを巡らしても自分の姿を「バラバを釈放せよ」と叫ぶ人たちのの中にしか見つけることができない▼キリストを十字架につけたのは私たちの罪のため：。そう教えられて数十年。でも、心の中に何か特別なものをもらわなければ、世の中にある価値観とキリストの価値観のどちらが大切なのか、いつも目の前にある幸福もどきに手を伸ばしてしまふ自分には「バラバを」という選択肢以外を見つづけるは困難だと思ふ。

神父様が亡くなられて、七月二十二日で一年になりました。葬儀ミサの時に配られた履歴の書いてある顔写真のご絵をいつも見ているので、まだ生存されているように感じています。

神父様は社会人経験を經て司祭になられたので、実社会で生きている信徒のことがよく分かっておられたのだと思います。名瀬聖心教会助任時代はちょうど、私の子どもたちが小学生の頃でした。長男は神父様の侍者をして、かわいがられて大人になつてからも神父様を慕っていました。知名瀬教会の主任時代には、よく病院訪問をされたようで、私の知人の婦人は大病をして入院中に神父様からご聖体を拝領して病気を克服する力を得たと言っていました。

二〇〇三年九月には「ロザリオの年に行くルルド・サンチャゴ・ファチマ巡礼」に全国からの二十七人と一緒に巡礼をした思い出があります。巡礼は

### 柔和の人木村敏彦神父様を偲ぶ

—師の一周忌を迎えて—

三 國 平 大熊小教区浦上教会

た。神父様と一緒した六年前の樂しかつた巡礼が思い出されます。神父様は難病・キャッスルマン病に悩まされながら治療に励んでおられました。でも五十五歳という若さで神様に召されました。若い司祭が帰天される時にはいつも思いますのは、召命の少なくなつた時代に神様は何故若い司祭を召されるのかということですか。

余談ですが、神父様が使われていた車が、今、大熊小教区で役立っています。「私は、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走り通し、信仰を守り抜きました。今や義の栄冠を受けるばかりです」の通り、神父様は神様からの栄冠を受けていることでしょう。

## 信仰と漢字(八)

純心学園 岡 俊郎

使命感今日もひねもす生き活きと主にならいてぞ命味わう

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」(マタイ11の25)

年のせいでしょうか、「天におられる私たちの父よ」と祈れるのが、毎日の生活の中で一番嬉しく、誇らしく思えるようになりました。

「天地の主である父よ」と祈り、神の親心の中に生きる現実が、あまりにも身近で当たり前になっている生活の中で、赦しの恵みを

特に深く味わいました。強いて赤ちゃんになる、特に罪の赦しなので神さまの赤ちゃんになることだと本気で味わいました。神さまの赤ちゃんになるのが、人生の意味・目標とやつと納得、肚に収まりました。この人生の生き様が「天地の主である神よ」との祈り・叫びとして、身にしみて味わい始めています。

赤は火が盛んに燃えている意味(大きい意味と燃える意味を表す字と音を表す「火」とを合わせた文字)から、神さまの赤ちゃんになるとは、命の働きが全

力をもって動き出したことなのです。人間の救いは赤ちゃんとして生まれた一人ひとり、その命の働きにおいて心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして(ルカ10の27)、両親をはじめ多くの人々から愛され、大切に育てられたことに始まるのです。

命の源、命の救いである神を、「天地の主である父よ」と誉め称えることは、地上の生活で何よりも誇らしく感謝の歓びに満たされる生き様ではないでしょうか。

取る食事は、命の働きに変えられるのです。父なる神が無から創造して、人間に与えて下さった役目・万物の筆頭として働くのが命ではないでしょうか。永遠の命である神ご自身がご自分に似せて創られたのが人間なのですから、「天地の主である父よ」と誉め称えます。命の働きに目覚めた人間が、最高の生き様を味わい、永遠の命の働きである神様の親心の中ですます輝き続けると、信仰の働きは力強いものになります。

この真実の生き様は、自立整体という「病気をしない健康法としての全身マッサージ」(矢上裕氏が創案し指導して下さいます)を続けているうちに、「私は天から授かった命の働きの

はたいへん「熱心に」心を集中して霊操をし、それによつて神に就いての深い知識を得ました。彼らはしばしば告解し、聖体を拝領します。彼らは故郷の人たちを信者にしようという熱意をもって日本へ行きます」(書簡第83・2)。彼

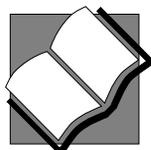
二年間要理を勉強したあと洗礼を受け、キリスト教の中で最も良いと思うのは何かとの質問に、「告解と聖体拝領」と答えています。ザビエルはこの日本人にいわば惚れ込んだに違いありません。ところで、ヤジローのこのよう

「のだ」と、命の自覚を味わうようになって、ますます力強く生きている・生かされていくとの思いを噛みしめています。

天地の主である父、即ち神様の親心を味わうようになりました。ご燈明のように命の働き、即ち自分のすべてをささげ尽くして神と隣人を愛するイエズスは、一人ひとりの命の働きを神様とも親子の道として人間の救いをまっとうして下さいました。小さな生命を守るための円ブリオの活動に、使命感は使命感へと育つことを教えてもらいました。合掌・感謝・アーメン

践学を学んでいたと考えられます。ザビエルがヤジローに、私があるたと一緒に日本に行つたら、日本人は信者になるだろうか、と尋ねたところ、彼は「先ず日本人はあなたにどれほどの知識があるかを観察するだろう。それから話したことと生活態度が一致しているかどうかを見るだろう」と答えています。この答えはまさに「いにしえの道を聞いても、唱えてもわが行いに、せっぱ甲斐なし」(いは歌)の精神に同調しているように思います。私たちの信仰が空論に終わることなく、また、時勢に翻弄されることなく、日本人の素養の中で成長しますように。

「火」とを合わせた文字)から、神さまの赤ちゃんになるとは、命の働きが全



## 新風

日本人最初の信者 パウロ・ヤジローの素養

鹿兒島では、毎年八月にザビエル陸記念祭が行われます。この機会に聖ザビエルに日本布教を決意させた人物、ヤジローを紹介いたします。ザビエルが日本へ向かう前、マラッカからポルトガル国王へ宛てた手紙に次のようにあります。「二人のイエズス会員と私とは三人の日本人とともにマラッカの町に到着しました。「三人の日本人は」きわめて善良な信者で、ゴアの聖信学院で主なるイエズス・キリストの信仰をよく教えられ学んだ後で、洗礼を受けた人たちです。三人とも「ポルトガル語の」読み書きを知っていますし、聖務日課の時課を唱え、特にご受難については深い信仰を持っています。彼ら

の洗礼名はパウロ、アントニオ、ジョアンです。ザビエル書簡ではパウロだけ日本名はアンジロー(ヤジローのこと)と記し、後の二人の日本名は分かりません。また、このヤジローを三人の中できわめて優秀と高く評価しています。約

な素養はどこから来たのでしょうか。最近鹿兒島で注目を浴びているのが島津日新公(忠良)が作った、「いは歌」です。これは初代薩摩藩主として文武両道の子息を育てるための実践学として編まれたものですが、ヤジローもこの実

(H・N)

「同じぶどうの木」の枝」テーマに

9月13日教区フェスタ開催

七月六日(月)教区本部で開かれた司祭評議会は、来たる九月十三日(日)に教区行事として予定されている教区フェスタの内容を次のように決定した。テーマは「同じぶどうの木」の枝。会場は鹿児島カテドラル・ザビエル教会。プログラムは午後一時から、司教座教会で献堂記念ミサ、午後二時からパワーポイントによる各小教区の紹介、午後三時から交流会となっている。

教区フェスタは今回が二回目となるが、これは本来、祭日だった鹿児島教区司教座教会献堂記念日(九月十五日)が平日になったため近くの日曜日に移動して祝うもの。教区フェスタは司教を中心とした教区の一体性を表すもので、テーマとしてその趣旨に沿った「同じぶどうの木」が選ばれた。第二部は全小教

区の司祭と教会活動の様子を紹介するもの。第三部は会場を教会ホールと中庭に移し、交流会になる。交流会では各教会や活動団体からの出し物を募集することになっている。

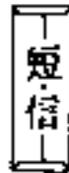
9日にはパネルディスカッション

今年のザビエル祭(8月16日)

恒例の「ザビエル上陸記念祭」を準備している実行委員会(藤山喜和義会長)では、八月十六日(日)開催の今年の催しについて次のように発表した。今まで内向きだった記念祭を宣教の場としても活用するため、鹿児島ユネスコ協会と協力し、前夜祭的に九日に平和に関するパネルディスカッションを開催する。会場はザビエル教会聖堂で、午後一時半から。カトリック側からは郡山司教が出演し、他宗教の代表者と平和について考えることになっている。また、記念祭本番の十六日には青年たちが中心となって祇園之洲からカテドラルまでの「ザビエルウォーク」(十三時三十分)と「平和の鐘を鳴らそう」「ザビエル上陸記念ミサ」(十七時)「祝賀会」が例年通り実施される。

第18回夏期集中講座

主催/カトリック鹿児島教区  
テーマ/イエスのたとえ話  
日時/8月17日(月)~21日(金)  
午前の部 10時~12時  
午後の部 19時~21時  
場所/ザビエル教会1階ホール  
講師/竹山 昭神父  
受講料/1人500円(資料代)  
申込/教会・修道院ごとにまとめて8月9日(日)までに教区本部「夏期集中講座」係まで



▼フィリピンフェスタ

六月二十一日(日)ザビエル教会でフィリピンの独立を祝う「フィリピンフェスタ」が開かれ五百人もの人々がテーマ「フィリピン人ー日本人家族とのあり方」のもとに交流を深めた。

▼パウロ年閉年ミサ

六月二十八日(日)カテドラルと聖心教会で、また七月五日(日)平土野教会でパウロ年を締めくくるミサがささげられた。またミサ中、教区独自の取り組み「パウロ年祈りの巡礼」の結果が奉納された

▼鹿コミチウムがアチエス

七月十二日(日)午後、レジオマリエ鹿児島コミチウムではカテドラル聖堂でアチエスを開催した。また締めくくりにミサは、昨年七月二十二日に帰天した木村敏彦神父の安息を祈ってささげられた。

教区人事

▼栃尾泰英神父  
高松教区から転籍し、七月十七日付で瀬留小教区主任司祭。五十五歳

8月の会と催し

- 2日(日) 年間第十八主日
- 3日(月) ルーシン神父命日(一九九四年)
- 4日(火) レヒナ神父叙階記念日(一九六〇年)
- 6日(木) 主の変容
- ▼カトリック平和旬間(〜15日まで)
- 7日(金) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)
- 9日(日) 年間第十九主日
- ▼ザビエル上陸記念祭「パネルディスカッション」・ザビエル・13時30分
- 10日(月) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 15日(土) 聖母の被昇天
- 16日(日) 年間第二十主日
- ▼ザビエル上陸記念祭・「ザビエルウォーク」(13時30分・祇園之洲)&「記念ミサ」(17時・カテドラル)
- 17日(月) 夏期集中講座「イエスのたとえ話」・ザビエル教会ホール・〜21日まで
- 23日(日) 年間第二十一主日
- 24日(月) 聖バルトロマイ使徒
- 28日(金) オーバン神父命日(一九八八年)
- ▼橋口啓悟神父霊名(アウグスチヌス)
- 29日(土) 九州青年キャンプ・マリア山荘・〜30日まで
- 30日(日) 年間第二十二主日

司教執務室便り

もう一つの熱い血潮

「私たちは年齢が高いので韓国では司祭になれません。しかし、司祭になって日本の教会で働きたいと思っただけです。」そんな意味のことをネットに書き込んだ。日本で学ぶ韓国人神学生から反応があった。しかも、司教が会ってほしいと言っているというニュースに沸き立った。二人がハイタッチして歓喜している姿が目につく。そんな二人のことを知った二人が更に加わった。三十七歳から四十七歳までの四人。出会いは系サイトで神学生誕生! なんだか楽しくなった。

去る三月、そんな四人と通訳の信者さんと共にソウルで会った。二時間近い面談の後で感動したのは本人たちよりも通訳の信者さんだった。日本での生活の体験から、日本の教会の事情にも明るい彼は四人もの神学生を一度に受け入れる負担の大きさを分かってくれた。「私にも協力させてください」と言って別れたのだったが、帰国後一カ月もしないうちに、十八人の後援者が誕生したというメールを受け取って、今度はボクの方が歓喜した。しかも、一人当たり百万ウォン(約八万円)を出資して日本語学校の費用も支援することになったという。彼は副会長として実務に当たることになったという。更に、ほとんどの後援者が高齢の女性たちだと聞いて驚いた。過去の歴史にまつわる辛い思いを誰よりも体験した

人たちだからだ。先月八日、そんな熱い思いに支えられた四人が副会長さんと共に来日した。空港から先ず案内した先はザビエル上陸記念碑。日本語の案内が丁寧な翻訳された。感動の面持ちの四人が印象的だった。「聖師ザビエルが初めて上陸されたところに私たちがこうして初めて立っています。とても感動しています。聖師の志をこの鹿児島で引き継いでいきますように。」御像の前での祈りにもすがすがしいものを感じた。鹿児島への思いを深くしながら十七日帰国した。思いがけない後援者の皆さんに感謝しながら十二月の日本語二級検定合格を祈るばかりだ。



催し物のお知らせ

- 黙想会「イエスと共に生きるために」  
W・キッペス神父(レデンプトール会)  
8月1日(土)10時~2日(日)16時  
マリア山荘(霧島市溝辺町麓3616-4)  
申込:西(TEL 0995-63-1943) 宮地(TEL 099-262-4022)
- パドレ・ピオの集い  
8月8日(土)12時30分 ザビエル教会 久保俊弘 ☎099-267-2375  
8月9日(土)14時 マリア教会 聖体賛美式とロザリオの祈り、ミサなど(自由献金) ☎0997(52)0339 小さく貧しい祈りの集い
- 連合青年会同窓会  
8月15日(土)12時30分 研修の家(鹿児島市唐湊) ミサと茶話会
- アルファコース  
9月3日(木)から15週間 10時~13時 ザビエル教会1Fホール 申込:柳(TEL 099-256-3090)
- 裏辻洋二神父による御言葉と祈りの集い  
9月16日(水)10時~17時・17日(木)9時~14時 教区本部2F会議室  
申込:柳(TEL 099-256-3090) 迫田(TEL 099-229-3975)

# トルコ巡礼の旅10日間

谷山教会 生駒徹太郎

トルコは行く所通る所  
壮大に遺跡が溢れ、どこ  
を切り取っても絵葉書に  
なるような風景が広がっ  
ている。遠目にも興味を抱  
かせる風貌を持つ遺跡達に  
一歩足を踏み入れると、最  
大三千五百年からの歴史を  
持つ巨大な石造りの建築物  
や荘厳な雰囲気のあるキリスト  
教宗教画に取り囲まれるこ  
とになる。旅の一行は「凄  
い！」と「綺麗！」の連続  
だった。

この旅が私に改めて黙示  
録を読む機会を与え、二千  
年近くも昔、神の啓示で  
ヨハネがこれを書いた風景  
は、どのようなものかと心  
惹かれていた。

旅も終わりに近づいた頃  
訪れたその洞窟は、片道四  
時間波に揺られ続けてやっ  
と辿り着いたエーゲ海に浮  
かぶパトモス島にあった。  
眼下に広がる真っ白な建物  
と蒼いエーゲ海が作り出す  
コントラストのリゾート地  
の中で、海に面して港から  
の動きが見渡せる島の中腹  
にあった。無人島の時代の  
洞窟でのヨハネの厳しい生  
活は、わざわざ思いを馳せ  
てみるしかない。そう思い  
ながら洞窟から見える現代  
の風景を見てみると、すっ  
かり観光スポット化した洞  
窟でも、私が聖書の一部と  
重なったような感覚にとら  
われた。

幾つもの時代の流れが、  
同じ空間に存在するところ  
に住む人々の作る空気は、  
何処とない懐かしさを感じ  
させ、ほっとするものが  
あった。時代の流れは一部  
は混ざり合っているが、そ  
の多くは二千年もの昔から  
混ざり合うことなく存在し  
ている。トルコ民族の祖先  
である遊牧民族とトルコ絨  
毯の歴史もそうして現代に  
繋がれている。

高い塀に覆い隠された  
教会や活動を失った教会な  
ど、異宗教に対する様々な  
法規制や意識の存在も体験  
することになった。それは  
また、世界中から異教徒を  
国に集めることになってい  
る。人為的な障害もこうし  
て次第に自然な流れに合流  
することになるのだろうか、

そうやって欲しいと思うこ  
とだった。

覚え立てのトルコ語で話  
しかけると、大人も子ども  
も目を輝かしてくれる。と  
ある街で、二人のちびっこ  
兄弟とサッカーをした。そ  
の夜、子達の家へ招かれ夕

## みことば③

### 触れるとは「聞くこと」(監) 教区助祭 四條淳也

奄美の「ゆしごと」(教  
訓)に「話し上手なりゆん  
くんま、聞き上手なれ」(話  
上手より聞き上手)という  
のがあり、亡き母が生前よ  
く言っていた。また「親ぬ  
ゆしごとやわが身ぬ宝、耳  
に聞き止めて肝に染めれ」  
(親が話した教訓は、わが  
身の宝である。耳に聞き  
止めて心に染めなければな  
らない)。この「ゆしごと」  
は、子どもの頃に聞いた話

食を馳走になった。お父  
さんのムスタファさんは、  
英語が出来たのでお互いの  
国の印象や自分達のことを  
話した。思いがけないこの  
時間は、トルコの旅で得た  
最高の時間となった。

なので、正確には覚えてい  
なかつたが、最近、日めく  
りカレンダーとして文字に  
したものが、母の実家で見  
つかったのが、正確にここ  
に書くことができた。

紙が十分になかつた母の  
時代には、学校で先生の話  
す言葉をしっかりと聞いて  
て、石版に何回も書いて覚  
えたと言っていた。また、  
ゆしごとの一部は島唄とし  
ても残っている。

## 文芸 短歌

純心学園 川上 和	俳句	霧島 政ノブ子
カナの宴水はぶどう酒に変えられし御子 にとりなす御母いませり	大口 森 博伸	老い二人ポピー咲く道一歩づつ 鹿兒島 徳永ノブ子
古傷のこころに疼く日のありて火影の揺 れてロザリオの見ゆ	鹿兒島 前田 儀子	七夕の願い一枚平和あれ 純心学園 山頭 信子
珈琲が苦きかをりを立つる宵いまだに心 の闇は真深かし	名瀬 林 明子	紫陽花の大輪ゆれて夢想明け 純心学園 川上 和
泣き虫で強くないけど咲く花つぼみのゆ めたくさんあるよ	純心学園 岡 俊郎	ゆかた出で「夏だ踊りだ」うちわ浮く 鹿兒島 春山マリ子
新約聖書の「みことば」 を聞いてみよう。	朝のミサ教会の庭きれいにし 名瀬 林 常広	

何時見ても堂々と立つ桜島噴火に学ぶ働  
く命

## 新約聖書の「みことば」

「門番は羊飼いは門を  
開き、羊はその声を聞き分  
ける。羊飼いは自分の羊の  
名を呼んで連れ出す。自分  
の羊をすべて連れ出すと、  
先頭に立つて行く。羊はそ  
の声を知っているので、つ

いて行く。」(ヨハネ10・  
3〜4)

イエスはお答えになつ  
た。「第一の掟は、これだ  
である。『イスラエルよ、聞  
け、わたしたちの神である  
主は、唯一の主である。』  
(マルコ12・29)、イエス  
は申命記6・4「シエマー」  
の祈りを暗記していたので  
ある。

「イエスがゲネサレト湖  
畔に立つておられると、神  
の言葉を聞くこととして、  
(ルカ5・1)。イエスの  
言葉は神の言葉である。  
「ペトロがこう話してい  
るうちに、光り輝く雲が彼  
らを覆った。すると『これ  
はわたしの愛する子、わた  
しの心に適う者。これに聞  
け』という声が雲の中か  
ら聞こえた。」(マタイ17・  
5)この様に多くの箇所  
で聞くことが強調されてい  
る。

旧約時代には、神が直接  
預言者に語られたが、新約  
の時代には、神は、イエス  
を通して民に語られた。  
現代のわたしたちは、イ  
エスが語られた「みことば」  
を、なんと幸せなことに、  
いつでも聖書を通して聞く  
ことができる。

この次のミサには朗読箇  
所をあらかじめミサの前に  
ゆつくり読んでおき、ミサ  
の時に朗読者が読む「みこ  
とば」の文字を追いかける  
のを止めて、『聖書と典札』  
を伏せて、私たちも少年  
サムエルのように「どうぞ  
お話をください、僕は聞いて  
おります」(サムエル記上  
3・10)と答えて、朗読者  
の読む「みことば」を注意  
して聴いてみよう。きつと  
なにか心に響くものがある  
はず。そうすれば同じ「み  
ことば」も新鮮に聴くこと  
ができるかも知れない。

## +KABAYAN SEKSIYON+

### "Mga May-Kabalintunaanang Katangian ng Pananampalataya"

Ipagpapatuloy natin ang pagtalakay tungkol sa Pananampalataya. Ngunit hindi nangangahulugan na ang katiyakang ito ng Pananampalataya ay malinaw at kitangkita. Sa halip, naniniwala tayo sa "Misteryo" ang Diyos, ibig sabihin'y, lagi Siyang "higit pa" sa anumang ating maaaring maunawaan. Tinuturuan tayo ni San Pablo: "Sa kasalukuyan, tila malabong larawan ang nakikita natin sa salamin". "Namumuhay ako ayon sa pananalig sa Diyos, hindi sa mga bagay na nakikita". Ngunit ang kalabuang ito na nararanasan natin maging sa ating pinakamalalim na pakikipag-ugnayan sa kapwa-tao ay hindi sumisira sa katatagan ng pananampalataya. Ang pangalawang tema na tatalakayin natin ay ang tungkol **B. Malaya, Subalit Dapat Tugunan-** Ang pangalawang kabalintunaan ng pananampalataya ay parehong **malaya subalit may obligasyong moral.** Ang ating Pananampalatayang Kristiyano ay isang malayang pagtugon. Walang makapipilit sa atin, kahit ang Diyos, na tayo ay maniwala. "Tinatawag ng Diyos ang lahat ng tao upang paglingkuran. Siya sa espiritu at sa katotohanan. Samakatuwid, may tungkulin sila sa Kanya sa budhi subalit hindi pinipilit. Iginagalang ng Diyos ang dangal ng tao na Siya mismo ang lumikha: ang tao ay gagabayan ng kanyang sariling paghatol at tatamasahin niya ang kalayaan". Nararanasan nating mga Pilipino ang balintunaanang pag-sasama ng kalayaan at tungkulin sa ating mga ugnaya ng pampamilya at pakikipagkaibigan. Ang mga taong nagmamahal sa atin nang tapat ang pinaka-maykara-patang mag-angkin sa atin ngunit hindi pumipilit sa atin. Likas tayong tumutugon sa kanila sa pag-ibig. Ang Diyos na may pinakamalaking karapatang umangkin sa atin dahil sa kanyang walang-kaparis na pagmamahal sa atin ay nagpapaubaya at nagpapanatili sa ating malaya nang higit pa kaysa lahat. **K. Makatuwiran Subalit Higit sa Likas na Katuwiran-** Ang pangatlong kabalintunaan ng Pananampalataya Kristiyano ay parehong **makatuwiran subalit higit pa sa likas na pangangatuwiran** ng tao. Hindi salungat ang Pananampalatayang Krisitiyano sa ating pag-iisip. Bagkus, tanging ang mga may isip na nilalang lamang ang maaaring maniwala. Subalit ang pananampalataya mismo ay isang biyaya na nagbibigay-liwanag sa ating isipan "